

三府
客者評判記
三馬
修

13
3430
1



13
3430
1

故
横山有策氏
昭和四年五月
寄贈

外一冊

御高麗

跋

和

照降田少下駱草之後賣之人
軒とたふ人形所小本偶人
衛島が家許多あ終前
名小稱呼も官之なる中ゆを柳
橋と答言く豊前をさふ通
石町と呼々任を文の筆知
ありい。伎名表をいは具以負た
徳多新垂し。其少具以負乃
法はをりて石町くと通捕
よめ平が親分た三馬先生也
は満乃本町とこ〜〜た

引移り。例の無欲と號して
其の昔者欲を満く。賈人
其の文人を二役勤る。藥者
これをも他は延壽丹きり
る。此の師匠の筆頭。此
頃帳場は元小居りて客
者評判記を同くせん。是
頃連よりけりて生番の子
供を以てめて能く人情
と穿ち。老く癡情を述べ
たり。本家此後者評判
記といささか出右の字

者ガ奇し。此を川妻乃
ひやうなんまも。其のあらう
とは評判記を虚誕らわ
る。男本町は親玉

あまは方お向へを萬うと
以入三馬の間。其家紙ひん
意馬心猿須亭ふあめて

門人

古今亭三鳥迹



跋

三馬先生客者評判記を編めし

とありふ。おのまこと跋を書きしと曼文

あふ小極元此怪但あり後ハ大世見掛

乞ゆる二句一章物ふけりえあやを

あせ。是非なく二多る尻馬小意事

其人

樂亭馬笑法



客者評判記 卷之中

江戸 式亭三馬戲作

▲支役之部

巻頭

極上吉



具負定連

英雄

乃を曰勝餘新録の曰具負其極重み似たり

好重を負ふと云云定連の力と絶力と助く

と別とこれ別具負は文字の牽添や七四段具負

の力によつて是と云ふと耐えを後世に伝ふるの

幸あり別と信老の言ハ具負は幸たる者か

等しは見物ハ見負をりて不役より存際ハ

至の言傳おやのび其余は法國ふるむと

いふゆへにむつと書母系と書ふまゝに子曰書

及渡丹口用さるる居合を横て面后おむと

大女曰乃を東越く板は具負は



貝原連中はゆきと書像はゆきゆきとて
 ちりちりたはたはたは貝原とてゆきゆきとて



ゆきゆきとて
 ちりちりたはたは
 貝原とてゆきゆきとて
 ちりちりたはたは
 貝原とてゆきゆきとて

ゆきゆきとて
 ちりちりたはたは
 貝原とてゆきゆきとて

ちりちりたはたは



ゆきゆきとて
 ちりちりたはたは
 貝原とてゆきゆきとて

ちりちりたはたは
 貝原とてゆきゆきとて

ゆきゆきとて
 ちりちりたはたは
 貝原とてゆきゆきとて

女のみ目負

ひんき
貝負人

おとしひ

くれ

娘形

おちろツい

おちんを

いし

吉人芝全支

芝柳支



者^めは^ひひ^あひ^はは^じじ^ん助^おお^はは^さ○^ささ^のの^ちち
あ^らら^まま^のの^まま^の今^い今^のの^まま^の
夕^ゆ夕^のの^まま^の○^ささ^のの^まま^の紫^{むら}紫^のの^まま^の
錦^{にし}錦^のの^まま^の赤^{あか}赤^のの^まま^のと^とと^のの^まま^の
上^{かみ}上^のの^まま^の鳥^{とり}鳥^のの^まま^のと^とと^のの^まま^の
夜^よ夜^のの^まま^のと^とと^のの^まま^のと^とと^のの^まま^の
と^とと^のの^まま^のと^とと^のの^まま^のと^とと^のの^まま^の
助^{すけ}助^のの^まま^のと^とと^のの^まま^のと^とと^のの^まま^の
お^おお^のの^まま^のと^とと^のの^まま^のと^とと^のの^まま^の
不^ふ不^のの^まま^のと^とと^のの^まま^のと^とと^のの^まま^の
あ^ああ^のの^まま^のと^とと^のの^まま^のと^とと^のの^まま^の
根^ね根^のの^まま^のと^とと^のの^まま^のと^とと^のの^まま^の
の^のの^まま^のと^とと^のの^まま^のと^とと^のの^まま^の
根^ね根^のの^まま^のと^とと^のの^まま^のと^とと^のの^まま^の
あ^ああ^のの^まま^のと^とと^のの^まま^のと^とと^のの^まま^の

元ハ捕人ハ有秘金奪ガねんハ魔持の改メ
圍扇アあり付也是七金だナリあじの
おも威嚇うねんせんア一ツのくを布ウギシ
たしくたつアツクマヤちマあせり圍扇賣ク
まうじしと極也●せんあつ秘せう●
みせう●●能くシラ同屋受そのあつのかせん
のあきと借て未極ハ幕ウ●
西のかせんハ比して貸ねん●今をのきんがけり
そのあき極があらねん●せんあつが内のおり
せんぬ備て未まうりあらがあらせん●
よ●勝えのかせん●
せん●
と極一ツのくをせんあつ●
おんキツリとせんあつ●
おんあつとせんあつ●

引ケ返るのふいらん●
でぞり平仕仕るちや後々●
頭ハあるまて内てせん●
のめい●
合相おつたえ結う●
浮雲といふ物●
おめ附員●
ハ親遊さん●
女形を●
おれも員●
を知り●
七して切●
各が二十ニヤ●
だるな●
ごらうが●

赤地をたらすに社▲おれハ秋遊をたらすに結
●ナニノ秋遊をたらすに赤地五命の事子たらす
弱い赤地をたらすに強いよりのやうに強いけし中
勇をばすにやがるまぎと中をたらすに天機をたらすに例
てあらすも強うちや移入▲子赤地五命が強う
ても谷風をたらすに谷風をたらすに谷風小中
務ハ何務りりんう▲勝移入でさ●谷風強く
ても天機をたらすに谷風をたらすに天機強く強く
ても雷をたらすに谷風をたらすに雷をたらすに谷風を
あらすに移入よ●雷をたらすに大地をたらすに
移入▲おれ入るにやがるまぎと中をたらすに結
かきり移入おれ入るにやがるまぎと中をたらすに結
移入おれ入るにやがるまぎと中をたらすに結
が若くかきり移入おれ入るにやがるまぎと中をたらすに結
かきり移入おれ入るにやがるまぎと中をたらすに結

コソクへ今も入るにやがるまぎと中をたらすに結
コソクへ今も入るにやがるまぎと中をたらすに結

極上上吉 芝居好執心

利山男 乃きら二下職にさうある芝居好と良負
連にさうあるにやがるまぎと中をたらすに結

極上上吉 乃きら二下職にさうある芝居好と良負
連にさうあるにやがるまぎと中をたらすに結

赤地をたらすに社▲おれハ秋遊をたらすに結
●ナニノ秋遊をたらすに赤地五命の事子たらす
弱い赤地をたらすに強いよりのやうに強いけし中
勇をばすにやがるまぎと中をたらすに天機をたらすに例
てあらすも強うちや移入▲子赤地五命が強う
ても谷風をたらすに谷風をたらすに谷風小中
務ハ何務りりんう▲勝移入でさ●谷風強く
ても天機をたらすに谷風をたらすに天機強く強く
ても雷をたらすに谷風をたらすに雷をたらすに谷風を
あらすに移入よ●雷をたらすに大地をたらすに
移入▲おれ入るにやがるまぎと中をたらすに結
かきり移入おれ入るにやがるまぎと中をたらすに結
移入おれ入るにやがるまぎと中をたらすに結
が若くかきり移入おれ入るにやがるまぎと中をたらすに結
かきり移入おれ入るにやがるまぎと中をたらすに結

芝居好のついでにのむまごの狂まじき
 六夜もはやくまじりかゝるに「たゞん」
 その年中れおちるおしりよの腰へ
 位おちのやうな様の子も直に
 よのりつて芝居好昌れまじ芝居好の好ま
 づりまじ

芝居好のついでにのむまごの狂まじき
 おれとも紙敷のまじきとひま年の後編ま
 詠りもまじけし一すたる芝居好のついで

ちぬきこ「のむまごのついでにのむまご
 ひつごまのたけ入敷てまのり給へまのり
 ニツト田五六のついでにのむまごのついで
 じよひつごまのついでにのむまごのついで
 おしては後一日のついでにのむまごのついで
 ぐ又のついでにのむまごのついでにのむまご
 かるがあつちのついでにのむまごのついでにのむまご

芝居好

芝居好のついでにのむまごの狂まじき
 六夜もはやくまじりかゝるに「たゞん」

その年中れおちるおしりよの腰へ
 位おちのやうな様の子も直に



菓子よ

茶よ

はるあつち

幕の内

こまじり

まじり

三亭五蘭

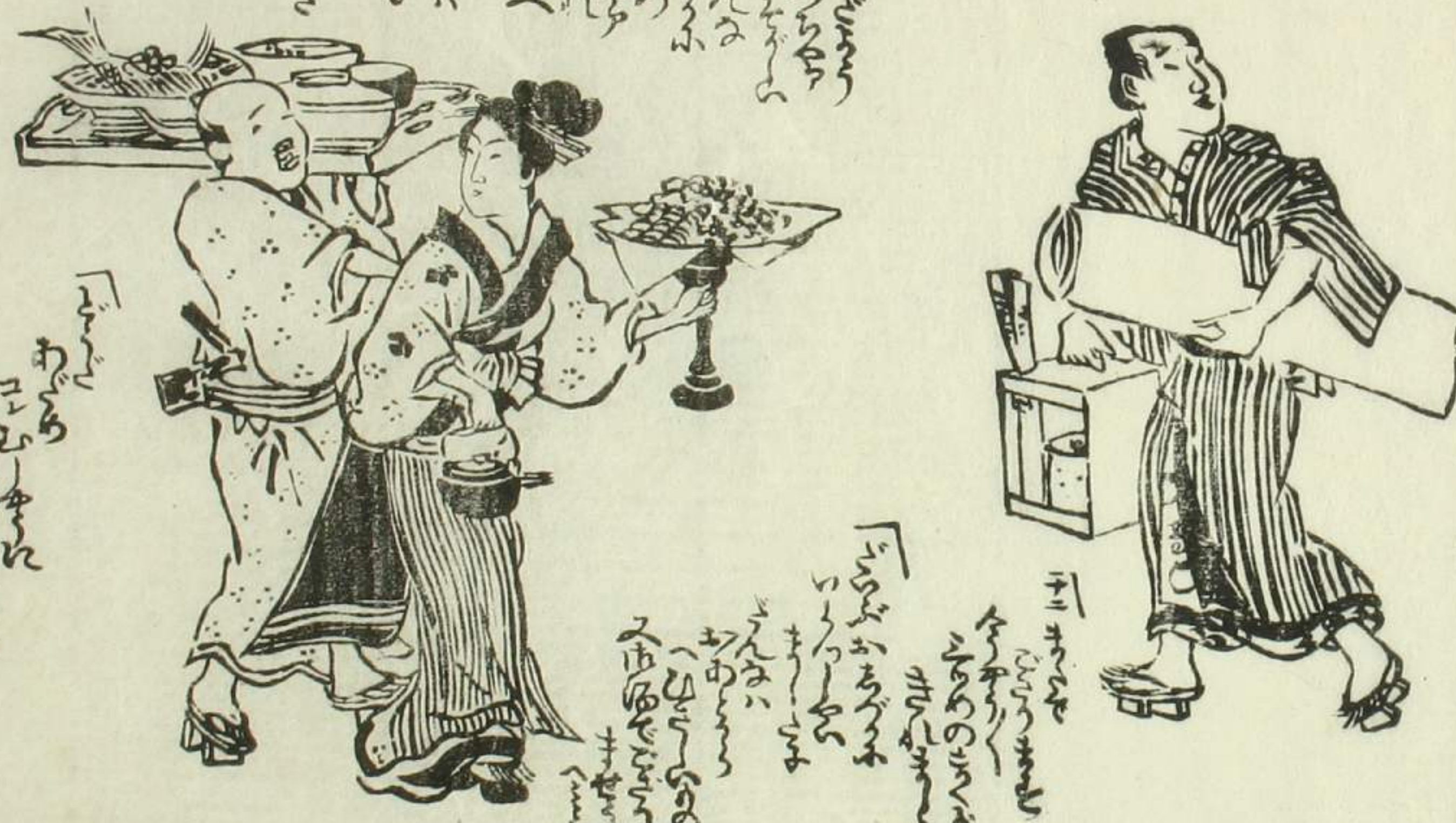
「Theater」に於ては、その性質が如何なるに依りて、
「Theater」に於ては、その性質が如何なるに依りて、
「Theater」に於ては、その性質が如何なるに依りて、
「Theater」に於ては、その性質が如何なるに依りて、
「Theater」に於ては、その性質が如何なるに依りて、

真上上吉 見 功 者 湘 練

狂言見の四者、狂言見と役者見の差別あり。
狂言見の四者、狂言見と役者見の差別あり。
狂言見の四者、狂言見と役者見の差別あり。
狂言見の四者、狂言見と役者見の差別あり。
狂言見の四者、狂言見と役者見の差別あり。

中途、中途、中途、中途、中途、中途、中途、中途、中途、中途、
中途、中途、中途、中途、中途、中途、中途、中途、中途、中途、
中途、中途、中途、中途、中途、中途、中途、中途、中途、中途、
中途、中途、中途、中途、中途、中途、中途、中途、中途、中途、
中途、中途、中途、中途、中途、中途、中途、中途、中途、中途、

三浦の
 新編
 伊賀の
 上巻
 一巻
 二巻
 三巻
 四巻
 五巻
 六巻
 七巻
 八巻
 九巻
 十巻
 十一巻
 十二巻
 十三巻
 十四巻
 十五巻



幕末
 新編
 伊賀の
 上巻
 一巻
 二巻
 三巻
 四巻
 五巻
 六巻
 七巻
 八巻
 九巻
 十巻
 十一巻
 十二巻
 十三巻
 十四巻
 十五巻

三浦の
 新編
 伊賀の
 上巻
 一巻
 二巻
 三巻
 四巻
 五巻
 六巻
 七巻
 八巻
 九巻
 十巻
 十一巻
 十二巻
 十三巻
 十四巻
 十五巻

三浦の
 新編
 伊賀の
 上巻
 一巻
 二巻
 三巻
 四巻
 五巻
 六巻
 七巻
 八巻
 九巻
 十巻
 十一巻
 十二巻
 十三巻
 十四巻
 十五巻



三浦の
 新編
 伊賀の
 上巻
 一巻
 二巻
 三巻
 四巻
 五巻
 六巻
 七巻
 八巻
 九巻
 十巻
 十一巻
 十二巻
 十三巻
 十四巻
 十五巻

三浦の
 新編
 伊賀の
 上巻
 一巻
 二巻
 三巻
 四巻
 五巻
 六巻
 七巻
 八巻
 九巻
 十巻
 十一巻
 十二巻
 十三巻
 十四巻
 十五巻

三浦の
 新編
 伊賀の
 上巻
 一巻
 二巻
 三巻
 四巻
 五巻
 六巻
 七巻
 八巻
 九巻
 十巻
 十一巻
 十二巻
 十三巻
 十四巻
 十五巻

三浦の
 新編
 伊賀の
 上巻
 一巻
 二巻
 三巻
 四巻
 五巻
 六巻
 七巻
 八巻
 九巻
 十巻
 十一巻
 十二巻
 十三巻
 十四巻
 十五巻

上上吉 芝居通 実鑿



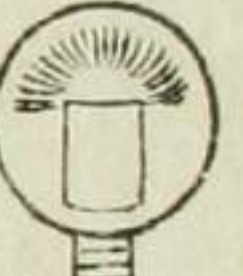
及至年中芝居通と申すは、（一）芝居の盛りの都府
 の老ふちづり多し、（二）芝居の盛りの都府
 今更には、（三）芝居の盛りの都府
 申すは、（四）芝居の盛りの都府
 申すは、（五）芝居の盛りの都府
 申すは、（六）芝居の盛りの都府
 申すは、（七）芝居の盛りの都府
 申すは、（八）芝居の盛りの都府
 申すは、（九）芝居の盛りの都府
 申すは、（十）芝居の盛りの都府

上上吉 金五足 訳 知 通情

此業知ておはし、（一）芝居通と申すは、
 お場をまゝに、（二）芝居通と申すは、
 申すは、（三）芝居通と申すは、

及至仕打の芝居通と申すは、
 これをいひ、（一）芝居通と申すは、
 申すは、（二）芝居通と申すは、
 申すは、（三）芝居通と申すは、
 申すは、（四）芝居通と申すは、
 申すは、（五）芝居通と申すは、
 申すは、（六）芝居通と申すは、
 申すは、（七）芝居通と申すは、
 申すは、（八）芝居通と申すは、
 申すは、（九）芝居通と申すは、
 申すは、（十）芝居通と申すは、

お強ひたるは及位わたりの通りさ入いりの必かならず在ある
まをらむ花はなせしなぐてありまきねどさうら及
の幸しあわせ抱かかまづ後ご評ひょうふかろうまきうを有あく

上上士  役者やくしやまきどつと 好男こうなん

及わさる解かいのかちで色いろ出ですも湯ゆる解かいせう
て丁ちやうあぐて居いらるゝハ役者やくしやまきまふお家の二ふた蔵くら
このコこく役者やくしやまきどつとハさうした利り屋やぢや
及わこれ別べつ色いろ身みなりあつ弱じやく氣き男なん格かくも祇ぎの
花はな子こハ目め身み世よに付つくるて男なんぶのいふも祇ぎ格かく
師し不ふ突とつせんとも黄わうさまの酒しゆのよすまらぬ
義ぎ風ふうがれど茶ちや入いるはは日ひ月げつ負おかふはら
うさうも茶ちや店てんのゆふれ好こう也やもまきと後ご者しや
で云いふらら誰たれもあけ字じぢやホニ正せい改かいの
惟た某いのうもま入いる方かた美みからう惜おぼの男なんが

まふちやさう後ご者しやあひてんていづて傍そばから板いた敷しき
けちてさうとさうあつての難なん意いに後ご者しやは下したへ
ハ別べつ腹はらの油あぶらは後ご者しや入いるの湯ゆゆり湯ゆは
終つひ馬うまの湯ゆはあはつれ流ながれ行いく風ふうの申まをす
がそそ二ふた時じの申まをすの湯ゆ上うへのから浴ゆをうさう
床とこ入いるに幸しあわせれあつれもさうなつていづて様よう
はひさうもねまきとてさもせぬ後ご者しやは下したへ
さうとさうかたが後ご者しやは下したへ幸しあわせれあつて
格かく子こ下した下したとさうなつていづて様ようは下したへ
と下したのさうとさう白しろ粉こな流ながるも青あお色いろも用もちひ
後ごでけ上げのいさし風ふう俗ぞくとさうとさうとさう
のお婆おばも目め細こまめてのさうの似にていづて
と役者やくしやは下したへさう形容けいようもさうとさうとさう
まねをさうとさうとさうとさうとさうとさう
まきとさうとさうとさうとさうとさうとさうとさう



三島亭
柳蝶
役者
色
古今亭三島

役者組

早く刀をさおられ、
 牛、
 打の紐、
 佐吉、
 増多、
 ちや、
 内、

公の目、
 後、
 内、

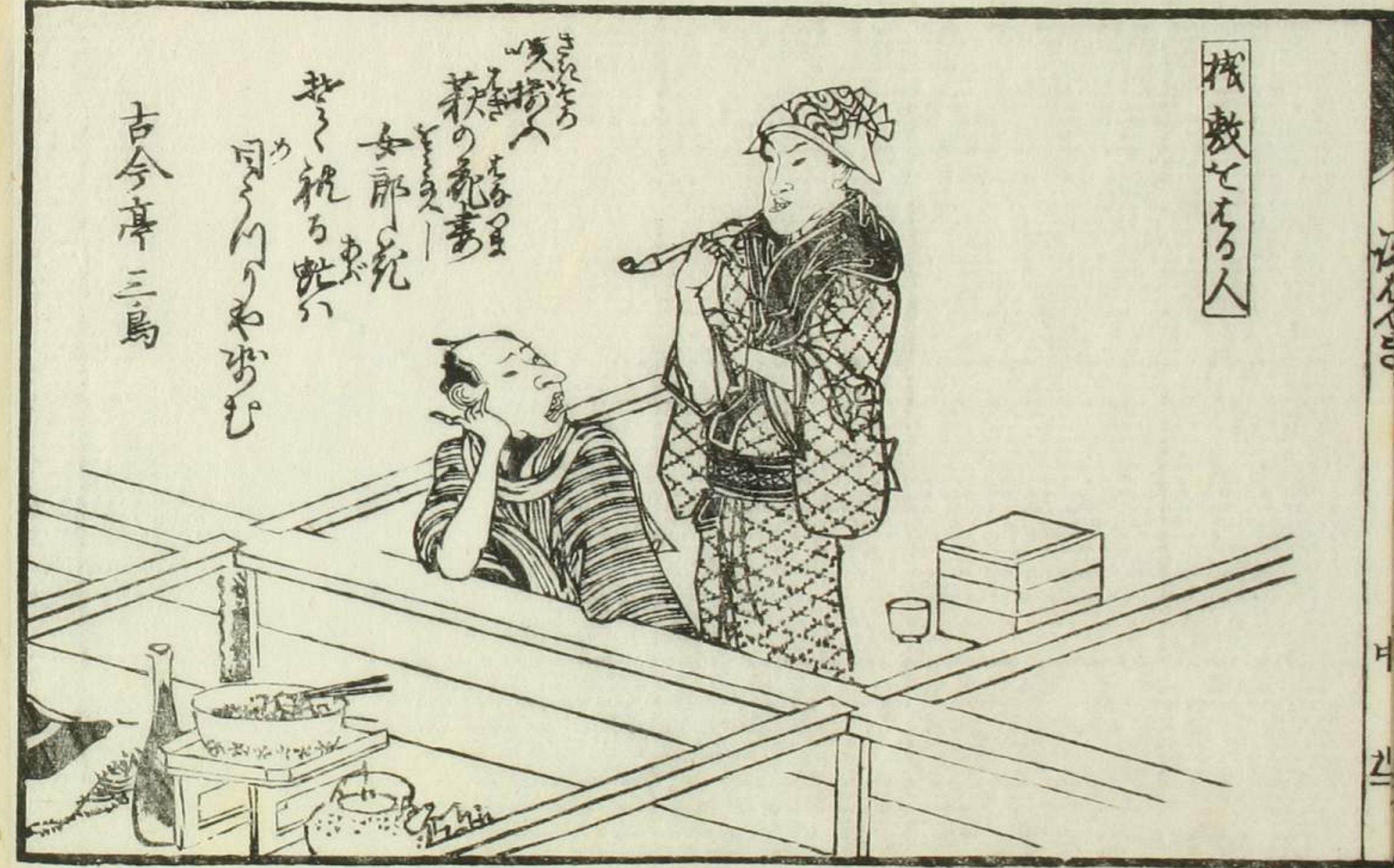
おれ、
 狂、
 ちや、

ゆきしらやんや。きりぎりすのこゝろに女が配くと
いふさうにうらやまのこゝろに女が配ると
いふさうにうらやまのこゝろに女が配ると
いふさうにうらやまのこゝろに女が配ると
いふさうにうらやまのこゝろに女が配ると
いふさうにうらやまのこゝろに女が配ると
いふさうにうらやまのこゝろに女が配ると
いふさうにうらやまのこゝろに女が配ると
いふさうにうらやまのこゝろに女が配ると
いふさうにうらやまのこゝろに女が配ると

いふさうにうらやまのこゝろに女が配ると
いふさうにうらやまのこゝろに女が配ると
いふさうにうらやまのこゝろに女が配ると
いふさうにうらやまのこゝろに女が配ると
いふさうにうらやまのこゝろに女が配ると
いふさうにうらやまのこゝろに女が配ると
いふさうにうらやまのこゝろに女が配ると
いふさうにうらやまのこゝろに女が配ると
いふさうにうらやまのこゝろに女が配ると
いふさうにうらやまのこゝろに女が配ると

半々

古今亭三鳥
 煙草の味
 女那死
 せうじろに
 目いふおめ
 古今亭三鳥
 煙草の味
 女那死
 せうじろに
 目いふおめ
 ...



又^{ハシラ}申^{ハシラ}上^{ハシラ}下^{ハシラ}其^{ハシラ}中^{ハシラ}に^{ハシラ}書^{ハシラ}け^{ハシラ}り^{ハシラ}し^{ハシラ}る^{ハシラ}事^{ハシラ}也^{ハシラ}
首^{ハシラ}の^{ハシラ}末^{ハシラ}に^{ハシラ}書^{ハシラ}け^{ハシラ}り^{ハシラ}し^{ハシラ}る^{ハシラ}事^{ハシラ}也^{ハシラ}

ト云^{ハシラ}ふ^{ハシラ}事^{ハシラ}也^{ハシラ}ハ^{ハシラ}其^{ハシラ}中^{ハシラ}に^{ハシラ}書^{ハシラ}け^{ハシラ}り^{ハシラ}し^{ハシラ}る^{ハシラ}事^{ハシラ}也^{ハシラ}

其^{ハシラ}中^{ハシラ}に^{ハシラ}書^{ハシラ}け^{ハシラ}り^{ハシラ}し^{ハシラ}る^{ハシラ}事^{ハシラ}也^{ハシラ}

ト云^{ハシラ}ふ^{ハシラ}事^{ハシラ}也^{ハシラ}

其^{ハシラ}中^{ハシラ}に^{ハシラ}書^{ハシラ}け^{ハシラ}り^{ハシラ}し^{ハシラ}る^{ハシラ}事^{ハシラ}也^{ハシラ}

ト云^{ハシラ}ふ^{ハシラ}事^{ハシラ}也^{ハシラ}

其^{ハシラ}中^{ハシラ}に^{ハシラ}書^{ハシラ}け^{ハシラ}り^{ハシラ}し^{ハシラ}る^{ハシラ}事^{ハシラ}也^{ハシラ}

此^{ハシラ}書^{ハシラ}に^{ハシラ}記^{ハシラ}す^{ハシラ}る^{ハシラ}事^{ハシラ}也^{ハシラ}



